

中海自然再生全体構想 概要

目標

「よみがえれ、豊かで遊べるきれいな中海」を合言葉に、豊かな汽水湖の環境と生態系、そして心に潤いをもたらすきれいな自然を取り戻し、かつて（昭和20年代後半から30年代前半）の中海の自然環境や資源循環を再構築する。

課題

- 生活排水や農畜産業排水の流入による富栄養化
- 頻繁な赤潮の発生
- 垂直な人工湖岸の設置に伴う、湖岸域の浅場の減少
- 干拓事業等に伴う、浚渫窪地におけるヘドロの堆積
- 堤防の建設に伴う、湖流の変化
- 貧酸素水塊の発生による沿岸部の生物のへい死
- 漁獲量の減少

中海自然再生協議会

平成19年 6月に組織化
令和 6年10月 構成員数46個人・団体
(個人8、団体・法人8、専門委員10、行政機関20)

対象区域

境水道を含む中海本体(86.8km²)及び大橋川を除く中海に直接流入する河川の全集水域(595km²)



垂直な人工護岸



赤潮が発生した中海

5つの推進の柱（大きな目標）と目標を達成するための取組

1) 水辺の保全・再生と汽水域生態系の保全

- ・ アマモ場の保全と再生
- ・ 湖岸と浜の再生
- ・ 湖岸と浜の活用
- ・ 米子湾浚渫汚泥処分地の親水空間としての活用
- ・ 外来生物（ヌートリアなど）の駆除と駆除方法の開発

2) 水質と底質の改善による環境再生

- ・ 流入負荷の削減
- ・ 浚渫窪地の環境改善
- ・ 貧酸素水塊の解消
- ・ 汽水域生態系の物質循環を利用した水質改善
- ・ 水環境修復のための技術集約拠点の創出

3) 水鳥との共存とワイズユース

- ・ コハクチョウの生息場所の回復
- ・ シギ・チドリの中継地の保全・再生と休耕田の有効利用
- ・ ガン・カモ類の生息場所の保全
- ・ カワウの適正管理

4) 将来を担う子ども達と進める環境学習の推進

- ・ 河川や湖沼の環境学習プログラムの作成と実施
- ・ 環境学習ネットワークの構築
- ・ 中海環境データベースの構築
- ・ 中海環境マップの作成
- ・ 中海の自然再生活動の広報活動

5) 循環型社会の構築

- ・ 漁業の振興による循環促進
- ・ 赤貝（サルボウガイ）の復活
- ・ 流域内資源循環システムの構築
- ・ 伝統産業の復活
- ・ 有機農業の促進



中海での藻取り（昭和16年頃）